

# あかねだより

VOL.1  
2014年6月

## ソチ五輪を振り返って

ソチオリンピックは、初めての経験ばかりでとても新鮮で充実した1ヶ月でした。まず一番初めに驚かされたのは選手村の広さです。選手村の中には病院があったり歯医者があったりもちろん食堂やコインランドリーもあって、そこがひとつの町みたいになってました。



食堂では各国の料理があり、バイキング形式で自分の好きなものを食べられました。ロシア料理を頂きたかったのですが、見当たらなかったです。

探せなかっただけかもしれません。(笑)

また、バスも通っていてとても便利でした。

リンク(アイススケート場)の大きさも今までに見たことのないぐらいの大きさで、控え室もきれいで驚きました。初めて本番のリンクで練習した時は少し緊張しました。試合の時も日本ではそんなにたくさんの人が見に来ることがないのでたくさんの観客に圧倒されました。

最終試合でのドイツ戦でゴールキーパーとして出場し私は相手に得点を与えず無失点で日本チームに貢献しました。

しかし、4年後のピョンチャン(韓国)オリンピックに向けて「もっと練習をしてレベルを上げなくてはならないな」と実感させられた大会でした。

## ★今後のスケジュール★

6月は氷上トレーニング  
陸上トレーニングを週に3回します。

陸上トレーニング  
・30分間の持久走  
・2時間のウェイトトレーニング(ベンチプレス・スクワット)



# 釧路市長特別表彰と 市スポーツ賞を頂きました

スマイルJ 釧路出身選手

## 6人に市長特別表彰



市長特別表彰と市スポーツ賞を受賞した（左から）山根朋恵、竹内愛奈、獅子内美帆、床亜矢可、小西あかね、浮田留衣の6選手

ソチ五輪アイスホッケー女子日本代表で釧路出身の山根朋恵選手(28)、竹内愛奈選手(22)、獅子内美帆選手(21)、床亜矢可選手(19)、小西あかね選手(18)、浮田留衣選手(17)の6人に11日、釧路市長特別表彰と市スポーツ賞が贈られた。

授賞式は、釧路プリンスホテル(幸町)で開かれた「スマイルジャパンの健闘をたたえる会」(釧路アイスホッケー連盟主催)の中で行われた。

市は、日本選手団のプレザー姿の6人に賞状と記念品を贈呈。蝦名大也市長は「ソチ五輪の試合は多くの人の中継にくぎ付けになっ

た。素晴らしいプレーで地域や子どもたちに感動を与えてくれた」と述べた。

竹内選手は「ソチで感じた課題を克服して、次の平昌五輪では1勝と言わず、メダルを目指していきたい」と今後の抱負を語った。

釧路市長特別表彰は、昨年受賞した直木賞作家の桜木紫乃さん以来で、14、19人目となる。(斉藤直史)

トレーニングに  
励みメダルを  
目指します!!

2014年(平成26年)4月12日(土曜日) 北海道新聞 朝刊 釧路・根室 22ページ

